追想、宮下蕉風さん、
天使の翼を持つ人に抱かれて過ごした至福の時

宮下　蕉風氏

感謝の気持ちをたずさえて宮下蕉風さんのお墓に訪れること数度、そのたびに心を安らかにさせてくれるものでした。

ある時、名古屋日泰寺霊園の廟の入口で調達できるお供えの花とは異なる花が墓前にたむけられているのに出会い、誰かが家の庭から摘んだものか、或いは別のところで手に入れたものかと、ふっとその人の宮下さんへの思いをはせて心和ませてくれ、この世から消えても未だ愛されている「蕉風」さんが、生きているようで、満ち足りた気持になっていた。

宮下さんとは会う度にいつもご子息、規久朗さんの話を聞いていた。

美術評論家として多くの賞を得られているご子息が、NHK日曜美術館に出演の折には喜びの表情でその情報を伝えていただいていて、テレビでご子息に拝顔の機会を得た。

その後、ご子息は神戸大学の教授として著名になっておられるが、テレビ出演の折は「モディリアーニ」の話でした。現在は、激しい生き方の画家「カラヴァッジョ」の権威者となっておられるが、それにのめり込む息子さんを心から心配される父親の姿を見ていました。

思えば宮下さんは同じ大学の機械学科と私は建築学科と、学科は異なっていたが、一年生の時、大学の独身寮での飲み会で知り合ってから亡くなる迄ずっと親しくしていた。

私のアメリカ壮行の宴が大学同級生の鍋島三郎さんの住宅で開かれた時にも、出席して激励していただいたのを記憶しています。

アメリカから帰国後、私は自分の会社を立ちあげ、そこからは発注者名古屋市と受注者との関係が始まったが、後日、宮下さんがご自身の単身外国研修の折には、私がニューヨークで勤めていたシスカ・ヘネシー社のスタッフ達を紹介できた。又、ドイツのシュトットガルトでは、当時一緒に働いていたマンフレッド・ブルストさんを紹介できた。彼は帰国してマイスナー・ブルストの社長になっていたが、その後ドイツ訪問の度に『蕉風はどうしている』が私へ挨拶になっていた。他に宮野研究室の後輩でウィスコンシン州、マジソンのフラッド・アソシェツに勤める吉田甫さんも紹介できた。二年後、今度は、宮下さんから紹介をうけたアトランタのウェイン・ロバートソン氏の案内でアタランタのジョージア・パワーカンパニーの太陽熱利用の温水吸収冷凍機、シェナンドーの太陽光発電の実験施設も見学することが出来た。お互いに紹介し合った友人たちを通して、海を越えてドイツアメリカに友情の輪が結ばれていた。

１９９０年には、PESが企画し招待したアメリカの子供達「Kids for a Clean World」（地球を汚さないよう行動する子供）を、宮下さんが設計担当した富田工場（ごみ焼き場の排熱利用をしたプールを持つ）を案内して、子供達に地球環境に配慮した施設の実例を示していただいた。

地球環境に対する警鐘が世界的に鳴らされ始めた１９９７年１２月、COP３京都会議の折に「名古屋アジェンダ」では、その提案を松原市長にできたのも宮下さんの助言によるものである。

その後、１９９９年「公共建築物の環境配慮整備指針」を宮下さんの座長の下、２年間に亘り名古屋市建築局、環境局のスタッフの協力を得て成果物として完成させることが出来た。

私と同じ甲状腺の病気で飲み薬チラージンの効果を話し合いながら、この世での最後の会食は今池、東邦ガスビル９階のレストラン「ガス灯」での宮下さんのもてなしで終わりを告げている。

天に昇って翼を休め、こちらを見守ってくれているような気がして、夜になって星をながめる度に何か語りかけたくなる存在が宮下さんである。